



<形成外科>

概要

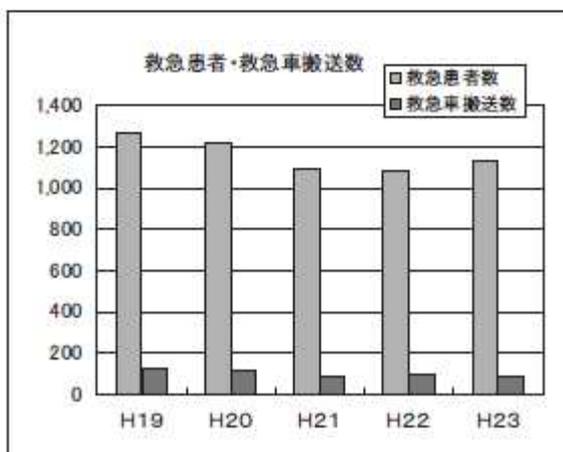
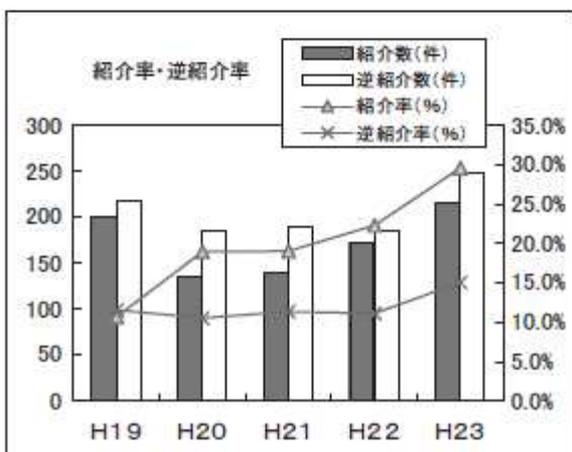
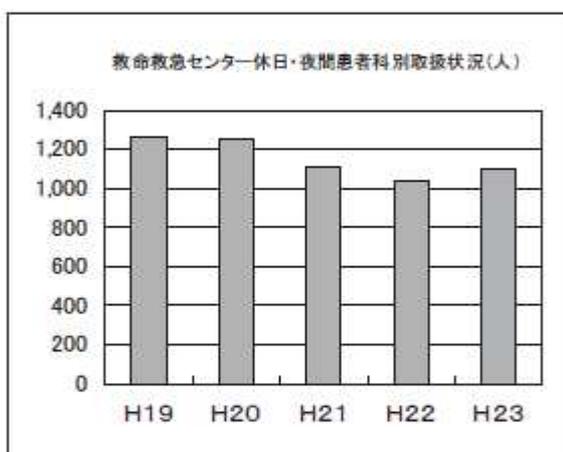
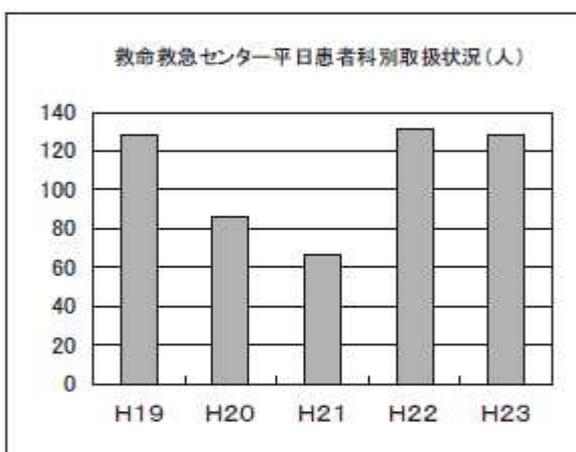
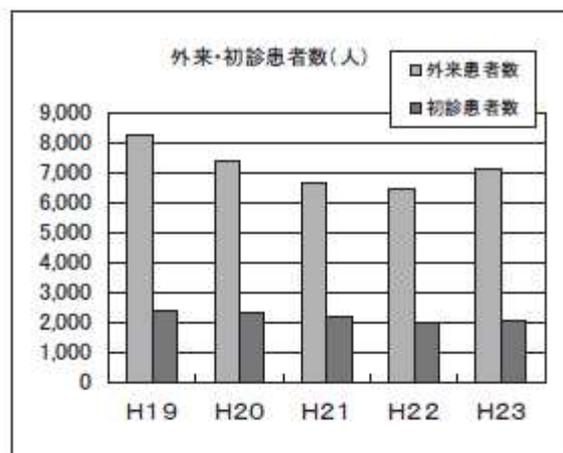
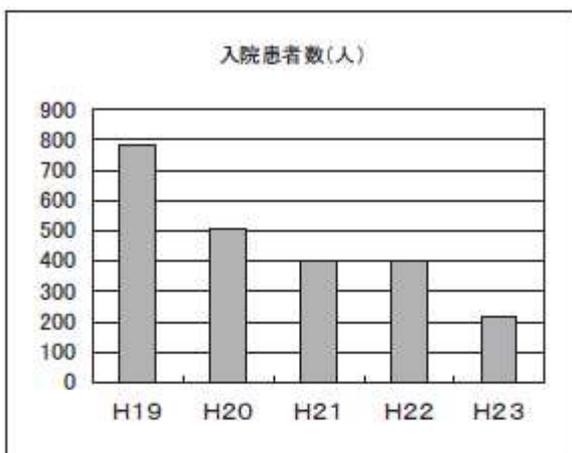
2011年の手術総数は332件、診療内容は、皮膚外傷、指尖部切断、熱傷、瘢痕形成、皮膚良性腫瘍、あざ、顔面骨骨折、悪性腫瘍切除後再建、褥瘡、先天奇形(耳、手指、足趾の奇形など)などである。太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着症に対しては、Qスイッチアレキサンドライトレーザー、色素性母斑や尋常性疣贅、脂漏性角化症などに対しては炭酸ガスレーザーによる治療を行っている。血管腫に有効なレーザーは当院には導入されていないが、愛知医大の代務医師による血管腫外来を月2回行っており、診察、およびレーザー照射後のフォローは当院で可能である。

最近の傾向としては創傷に対する湿潤療法を積極的に行うことにより、従来手術を要していた熱傷、外傷性皮膚欠損、指尖部損傷、褥瘡なども多くが保存的治療のみで治癒するようになってきており、それに伴い手術件数はやや減少している。また入院患者に褥瘡対策が行われるようになりⅢ度、Ⅳ度の褥瘡が大幅に減少し、褥瘡治療のため長期入院する症例も減少している。反対に最近増加傾向にあるのは、皮膚良性腫瘍、色素斑に対するレーザー治療、腋臭症手術、乳房再建、加齢に伴う腱膜性眼瞼下垂症手術などである。

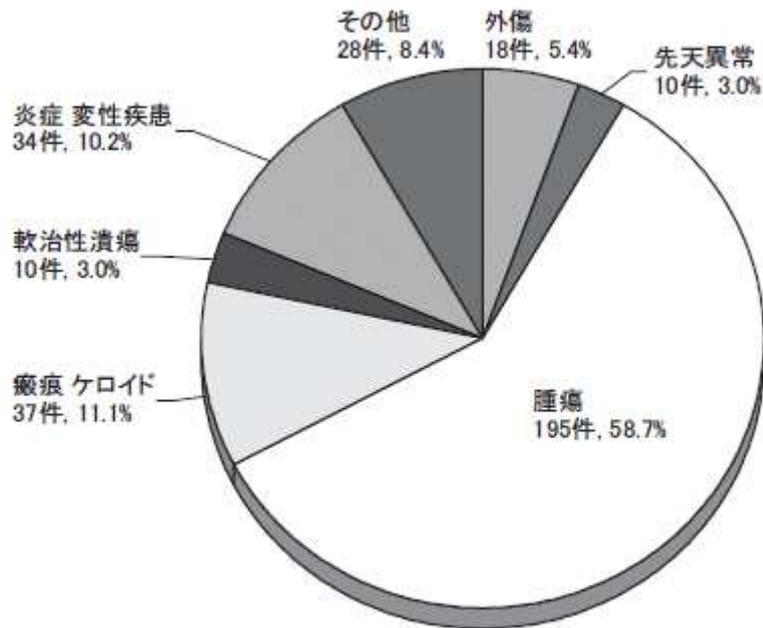
特に腱膜性眼瞼下垂症手術は手術によって、整容面や視野の改善のみでなく、頭痛、肩こりが改善することもあるため、最近注目されており、症例数は著しく増加している。

形成外科の扱う手術領域は非常に広く多岐にわたるため、症例によっては当院では対応できない場合もあるが、大学病院(名大、愛知医大)とも連携して常に最新、かつ高度な治療が提供できるように心がけている。

(柏崎喜宣)



手術内容区分 332件



(1) 形成外科臨床集計

新患数 1,987名
 入院患者数 83名
 手術件数 332件

(件)

麻酔種別	件数
全麻手術	60
局麻手術	249
計	309

(2) 手術内容区分 (件)

手術内容	件数
I 外傷	18
II 先天異常	10
III 腫瘍	195
IV 癒痕 ケロイド	37
V 軟治性潰瘍	10
VI 炎症 変性疾患	34
VII その他	28
計	332

業績

- 学会・研究会発表

学会・研究会発表

1. 採型シリコンゴムとアルミワイヤーを使用した埋没耳治療
樋口朋子、柏崎喜宣
第 46 回日本形成外科学会中部支部学術集会(名古屋)2011.8.6

